

中川そら豆・試験栽培!!

「中川そらまめ」再現と地域の賑いづくりによる観光の創出事業

「江戸原産の中川そら豆を、復活させよう！」

中川そら豆とは、中川の流域で獲れたそら豆です。江戸時代の文献にその名前が出ており、美味で江戸の殿様に献上したそうですが、その後、作られなくなってしまったそうです。

※江戸時代の中川とは現在の旧中川のことで、名所江戸百景にある中川口の中川船番所跡には、中川船番所資料館があります。

旧中川まちづくり協議会では、中川そら豆を栽培していた現在の旧中川流域で、育て、多くの人々に中川そら豆をアピールしようと計画しています。

■平成 26 年 1 月 30 日 30 苗到着。

房州早生一寸の苗・千葉県南房総より購入



▲ 旧中川河川敷の一角で「中川そら豆」の試験栽培!



中川そら豆は俗名で品種名は「房州早生一寸」。市販される「房州早生」より大きく身ぶりもよさそうです。



▲ 平成 26 年 2 月 2 日 2 月の 2 度の大雪で、苗がつぶされ、30 苗の大半が壊滅状態。



▲ 平成 26 年 2 月 2 日 栽培日記開始。

苗屋さんから無事に 30 株が届き、定植する。



▲ 平成 26 年 3 月 17 日 残り 10 株は、遅しく成長しています。(第 2 回・旧中川リバーフェスタ開催)



▲ 平成 26 年 3 月 21 日

追加で、多品種の「そら豆」を試験栽培。



▲ 支柱を立てて、分枝した枝を支えている。

成長が著しくなり、一部はアブラムシの被害を受ける。



▲ 平成 26 年 3 月 21 日

分枝を始めたので、支柱を用意する。



▲ そら豆の花と実 そら豆は上・空を向いて成長する。

(写真の左側に、空を向いている豆と花を付けている)



◆「空豆」の由来◆

そら豆は漢字では、「空豆」「蚕豆」と書きます。そら豆の莢は初夏の空に向かって、真っ直ぐに伸びるので、「空豆(ソラマメ)」という名前が付けられたと言われています。

また、莢の形が蚕に似ているためともいわれます。



▲ 収穫を確かめる中川船番所資料館の久染次長



▲ 中川そら豆の由来と、栽培の注意



▲ 栽培スタッフ 旧中川花畑くらの皆さん



▲平成 26 年 5 月 16 日の朝日新聞朝刊の記事

■事業の内容

① 観賞用「中川そらまめ」の栽植

「中川そらまめ」を川の駅付近で栽培し実物を知ってもらう（季節は限定）

② 地域の「食」の店舗でそらまめを使用した料理メニューを作成します。

お土産用としてそらまめの佃煮他を販売する。

③「中川そらまめ祭り」の開催

地域の賑いづくりのためと「中川そらまめ」の周知を目的としたイベントを毎年開



■旧中川地域に特化される資源発掘

自然の豊かさが大きな地域資源の地にふさわしいモノづくりでは、「食」の再現が観光のポイントとなると思われます。

かつて農地が広がっていた頃の農産物を再現し地域の名産品とします。

江戸時代この界隈より市中に広がって行ったといわれる江戸原種「中川そらまめ」の再現をし、この地を訪れた方に「食」のおもてなしをします。

写真は転載可能です。（資料活用にご利用ください）

写真提供者:小宮次夫

「中川そらまめ」のお披露目 江戸っ子に献上

江戸へ近郊野菜をもたらした小名木川から、日本橋へ船を使ってそら豆を運び、

「中川そらまめ」をPRします。

平成 26 年 5 月 24 日 (旧中川・川の駅)



▲ 山崎区長と小松会長 そら豆荷出しセレモニー



▲ 旧中川そらまめ祭り・実行委員長 小松様挨拶



▲ 献上 江戸っ子に初夏に旬のそら豆を届けるぞ!



▲ 幻の「中川そらまめ」を語る 久染次長



▲ 主催者の挨拶 故浅野清様を語る副会長浅野様



▲ そらまめクルージング・小名木川舟運・日本橋へ